United Nations University

国際連合大学
年次報告書
2023

UNU

国際連合大学
年次報告書 2023

学長メッセージ 3

世界を変革する知識 4

SDGsの推進：私たちの取り組み 5

人間 People 6
豊かさ Prosperity 7
地球 Planet 8
平和とパートナーシップ Peace & Partnerships 9

組織の概要：国連大学とは 10

国連大学システム 11
影響力をもたらすコミュニケーションと関係づくり 12
職員および財源 13
ガバナンスとリーダーシップ 14

国際連合大学
〒150-8925 東京都渋谷区神宮前5-53-70

Copyright © 2024 国際連合大学。無断複写・転載を禁ず

ISBN 978-92-808-9157-7
デザイン：MORI DESIGN INC.（東京）

www.jp.unu.edu

THE GLOBAL GOALS
For Sustainable Development

表紙について
表紙の図は、国連大学のさまざまな研究活動が相互に深く関連しあう様子を表現しています。個々の要素はSDGsの各目標を表し、該当目標に貢献する国連大学のプロジェクト件数に応じ、大きさを変えています。詳細は、本報告書の5ページをご覧ください。

学長メッセージ

2023年3月、私は国連大学の第7代学長に就任するという栄誉に浴しました。私が目指すのは、国連大学の世界への展開力と影響力の拡大です。この取り組みの助けとなるよう、国連大学はグローバル・サウスを中心に新たに世界規模の重要なパートナーシップを形成し、先駆的な研究と研修のイニシアチブを立ち上げ、その認知度と存在感を高めてきました。

国連大学は引き続き、持続可能な開発のための2030アジェンダとその17の持続可能な開発目標の推進に尽力してまいります。国連大学は、影響力のある出版物、イベント、専門的な研修プログラムを通じ、政策形成に有用な知識を科学的研究に基づいて生み出してきました。

組織面では、人工知能に重点を置く新たな国連大学研究所を設立する計画を推進し、研究と教育における将来的な連携に向けて革新的な「国連大学ハブ」コンセプトを試験的に実施し（カルガリー大学と提携してUNU-INWEHが実施）、国際学術会議（ISC）との間で共同研究、知識交換、研修活動に関する覚書に署名し、持続可能な開発の加速に向けた経済変革に関するUNU-WIDERの重要な5カ年プログラムを成功裏に完了させ、UNU-FLORESでは資源管理改善のための持続可能性分析ハブを始動させ、新たな国連大学ウェブサイトを立ち上げるなどの成果がありました。

新興テクノロジーに関する政策問題への国連大学の関与は注目に値し、国連システムに大きく貢献してきました。主な例として、新設された国連事務総長の科学諮問委員会の委員に私が任命されたこと、UNU-CPRが「効果的な多国間主義に関するハイレベル諮問会議」の事務局を務めたこと、UNU-EGOVが「電子ガバナンスの理論と実践に関する国際会議」の招集と議題設定において重要な役目を果たしたことなどがあげられます。

国連大学が活動開始から49年目を迎える中、2023年にあげた成果は、世界における国連大学の存在感を高め、解決策を重視する知識機関として国連システムへの貢献を最適化し、地球規模の持続可能な開発の追求における指導力向上という未来を築く助けとなりました。

国連大学理事会の献身的なメンバーと国連大学職員のたゆまぬ尽力、並外れた才能、そして多大な努力は、エキサイティングでインパクトある未来へと国連大学を導く原動力となっており、心から感謝申し上げます。世界中のパートナー、支援者、サポーターの皆様にも心から感謝いたします。私たちはこうした皆さまとともに、より明るく、より持続可能な世界への道を切り開いているのです。

この道程の足がかりとなる活動を紹介した2023年版国連大学年次報告書をお読みいただけることを、嬉しく思います。本書では、グローバルな国連大学システムと、2023年に成し遂げた多くの取り組みの一部を紹介しています。国連大学はこれからも、包摂的でグローバルな持続可能な開発の推進という使命をしっかりと守り続けてまいります。

東京 — 着任翌日の3月2日、国連大学の全職員を対象としたタウンホールミーティングを開催するチリツィ・マルワラ学長。

チリツィ・マルワラ

国際連合大学学長
国際連合事務次長

世界を変革する知識

国連大学は、研究と政策立案とをつなぐ役割を果たし、複雑で相互に関わりあう地球規模の課題への解決策を生み出しています。国連大学は、人間の生存、開発、福祉に対する幅広い課題について、学際的な研究を行っています。研究の成果を実用的な知識としてまとめ、前向きな変化を促す実行可能な提言を作成し、そうした知識と提言を人類のために生かせる人々に広めています。

国連総会で国連大学憲章が正式に採択されて、今年で50年です。国連大学はこの憲章に従い、1975年9月に東京の国連大学本部で活動を開始し、今日では12カ国にまたがる研究機関と研修機関の世界的ネットワークに成長しました。

国連大学のグローバルシステムは、数多くの国際的および地域的な政策分野と交わり、さまざまな学問分野の専門家を巻き込んで活動しています。国連大学の協働的なアプローチは効果的なパートナーシップを育み、独自の知識と実用的なソリューションの生成を促し、それによって世界規模で国連大学の活動の影響力が高まっています。

国連大学の活動は、平和と安全保障、社会変動と経済開発、環境と気候とエネルギーという3つの主要テーマ別クラスターを中心に構成されており、これらは17の持続可能な開発目標（SDGs）のすべてを網羅しています。国連大学の各研究所は、これらのテーマの1つまたは複数に関わる特定の課題に重点を置いて活動しています。

独立した研究・研修機関であり、国連システム内の信頼できるナレッジ・パートナーであるという特徴的な2つの顔を持つ国連大学は、その活動を通じて重要な地球規模課題に関する政策プロセスや議論に影響を及ぼしています。

この報告書では、国連大学のテーマの多様性と地理的範囲の広さを反映する2023年の主な活動を紹介します。

大きな効果をもたらす戦略的協力関係
国連大学は、国連事務局、機関、プログラムなど、国連のさまざまな組織とともに活動しており、世界中の数多くの地域機関とも積極的な協力関係を維持しています。これらのパートナーシップは、17の持続可能な開発目標に関連するさまざまなテーマに及んでいます。

国連大学の主な協力関係やパートナーシップ

国連システムの組織

国際連合教育科学文化機関（ユネスコ）：
人工知能倫理、生物多様性保全、気候変動緩和、持続可能な高等教育カリキュラム

世界保健機関（WHO）：
健康関連の実装研究、気候変動関連の健康問題、研究におけるジェンダー視点の強化、アジア地域の実装研究の研修センター

国連開発計画（UNDP）：
科学技術イノベーションとSDGsとの連動、水と衛生と持続可能な開発の政策

気候変動に関する国際連合枠組条約（UNFCCC）：
気候と安全保障、気候変動適応、レジリエンスと能力開発

国際労働機関（ILO）：
職業と社会的保護

国際連合経済社会局（UN-DESA）：
電子政府と社会的信頼

国際連合人間居住計画（国連ハビタット）：
持続可能な都市開発

国連児童基金（ユニセフ）：
ジェンダーと予防接種、ウクライナ紛争の子どもへの影響、ジェンダー平等、ジェンダー平等と健康のための女性のエンパワーメント

地域機関

東部・南部アフリカマネーロンダリング対策グループ：
現代の奴隷制と人身売買の対策

経済協力開発機構（OECD）：
強制移住への対応に関する報告書

欧州議会：
アフリカ連合の政治的統合の分析、外交・安全保障政策における欧州連合とアフリカ連合の関係の探究

アンデス共同体：
地域主義に焦点を当てた博士課程プログラム

国連アフリカ経済委員会：
デジタルガバナンスと持続可能な開発に関するプロジェクト

EURACリサーチ：
山岳地帯のリスクに関するポリシーブリーフ

国連アジア太平洋経済社会委員会：
持続可能な都市開発とSDGsの実施に関する研究

東南アジア諸国連合：
母乳育児、ジェンダー、健康へのアプローチ改善の取り組み

国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会：
科学技術イノベーションの政策能力強化の取り組み

アフリカ、アジア、ラテンアメリカの国連地域経済委員会：
ディーセント・ワークと不平等の軽減に関する研究

SDGsの推進：
私たちの取り組み

国連大学は、緊急性の高い地球規模の諸問題に対処するため、政策形成に有用な研究を実施し、エビデンスに基づく解決策を意思決定者や一般市民に提供しています。国連大学の研究では、学術分野を超えて水平的にも、地方、国家、地域、世界それぞれの視点を反映して垂直的にも統合された分析水準を採用し、複雑な課題に対する新たな視点を提供しています。その目的は、理論的理解を深めることや、「知識のための知識」を生み出すことだけでなく、現実世界で適用できる実践的な解決策を推進することにあります。

国連大学は、世界規模のパートナーのネットワーク（大学、研究機関、NGO、各国政府、民間団体）と幅広く協力し、重要な問題に関する議論を形成するエビデンスやアイデアを生み出すことで、国連システム内において研究と政策の橋渡しをしています。政策に重点を置いた研究と、関係者を動員する役割を果たすことで、国連大学は地方、地域、国際レベルでの政策形成に有用な成果を生み出しています。

持続可能な開発のための2030アジェンダの中心にあるのは、17の持続可能な開発目標（SDGs）です。国連大学は複数分野にまたがる専門知識を有するため、各目標に個別に取り組むだけでなく、複数の目標の相互依存性と、総合的な影響をとりあげて明瞭化することが可能です。これは、SDGs達成に向けた具体的な進歩を推進するために不可欠なアプローチです。17のSDGsは一般に、**人間、豊かさ、地球、平和、パートナーシップ**の5つの大きなカテゴリーに分類されます。

国連大学の学際的かつ総合的な問題解決アプローチに鑑み、国連大学の取り組みの多くが複数のSDGsに関連していることを理解することが重要です。ただし、本項では分かりやすさのため、各取り組みはそれぞれ最も適切なカテゴリーに配置して記載しています。国連大学は、世界規模のパートナーシップによって強化された多様な研究と能力開発の取り組みを通じ、持続可能な開発を積極的に推進し、より明るい未来を築く手助けをしています。

国連大学の研究対象は、SDGsのすべての目標を網羅し、プロジェクトの大半は複数の目標に貢献しています。

SDGsの推進

人間
People

SDGsの目標1–5が目指すのは、貧困と飢餓を終わらせ、
ヘルスケアと学習機会を強化し、ジェンダーに基づく差別をなくすことで、
すべての場所のすべての人が尊厳と平等と機会を得て自分の潜在的能力を
最大限に発揮して生きることを目指せるようにすることです。

2023年のハイライト

研究プロジェクトとイニシアチブ：

- ジェンダーに基づくグローバルヘルスの非対称性に、脱植民地化フェミニスト・アプローチをもって対処するため、グローバル・サウスにおいて包摂的で地域社会の実情を反映した戦略の確立を目指す（UNU-IIGH）
- 特に新型コロナウイルスによるパンデミック期に焦点を当て、マレーシアでのジェンダーに基づく暴力の程度と性質を調査し、保健制度においてトラウマインフォームドケア・モデルを確立するための政策提言を作成する（UNU-IIGH）
- アフリカ、南アジア、東南アジアの政府の保健プログラムにジェンダー視点を取り入れるための地域の慣行を調査し、成功要因と応用可能な教訓を特定する（UNU-IIGH）
- 世界大学ランキングが高等教育と公衆衛生政策に与える影響を研究し、ランキング制度の偏りを分析し、改善のための専門的な提言を行う（UNU-IIGH）
- ネットいじめやプライバシー侵害のリスク評価など、人工知能がアジアでの女性の安全と平和構築に及ぼす影響を探る（UNU Macau）
- 教育格差、社会的不平等、都市部の貧困などの問題の詳細な調査を実施する（複数の国連大学研究所）
- 「市民科学」の活用によりパンデミックへの備えと対応を改善する方法を分析し、かつ集団的知性の能力開発のツールとモデルを開発する（UNU Macau）
- グリーンイノベーションと女性のリーダーシップに重点を置いた、再生可能エネルギーとスマート農業のインキュベータープログラムを通じ、アフリカの若者と女性のエンパワーメントを図る（UNU-VIE）

出版物：

- Asia-Pacific Regional Synthesis: Climate Change, Displacement and the Right to Education（アジア太平洋地域統合報告書：気候変動、移住、教育を受ける権利）（UNU-IASによる書籍）
- 「Breaking Barriers and Building Bridges: Reimagining a Feminist Health Workforce（障壁を破り橋を架ける：フェミニスト医療従事者の再考）」（The BMJ誌掲載のUNU-IIGHによる記事）
- 「Freedom from Want: A Critical Reflection in the Face of the Anthropocene（欠乏からの解放：人新世における批判的考察）」（Journal of Human Development and Capabilities誌掲載のUNU-EHSによる記事）
- 「Improving Parenting Practices for Early Child Development: Experimental Evidence from Rwanda（幼児の発達のための子育て慣習の改善：ルワンダの実験的エビデンス）」（Journal of the European Economic Association誌掲載のUNU-WIDERによる記事）
- 「Why Global Health Continues to Deny Gender Equity（なぜグローバルヘルスはジェンダー平等を否定し続けるのか）」（Global Policy Journal誌掲載のUNU-IIGHによる記事）
- 「World-class Universities? Interrogating the Biases and Coloniality of Global University Rankings（世界クラスの大学？グローバル大学ランキングの偏見と植民地主義を問う）」（UNU-IIGHによるブリーフィングペーパー）

イベント：

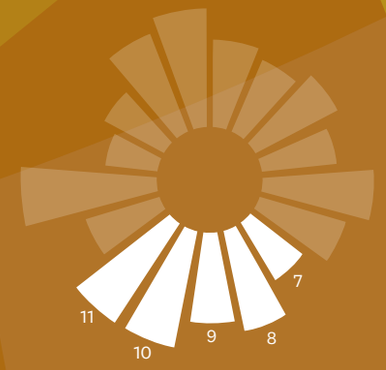
- エビデンス、発言、行動：ジェンダーと健康の平等に向けた変化の促進（UNU-IIGHジェンダーと保健に関するハブによるフォーラム）
- 母乳育児に関するThe Lancetシリーズの地域ローンチ（UNU-IIGH）
- 健康におけるジェンダー平等を実現するための環境整備（UNU-IIGHによるワークショップ）

教育と研修：

- 若者やコミュニティが持続可能性に取り組む能力を強化するためのワークショップやオンラインコース（UNU-IAS）
- 日本や海外における高等教育カリキュラム・制度に持続可能性を組み入れる取り組みの支援（UNU-IAS）
- 女性、ビジネス、法律（UNU-FLORESによるワークショップ）
- ワクチン接種や予防接種におけるジェンダーギャップへの対処（UNU-IIGHのe-ラーニングコース）
- 男女平等に関するEQUALS-EU研修（UNU Macauの研修事業）
- マカオの女性と女児のデジタル包摂と男女平等の促進（UNU Macauによるワークショップとラウンドテーブル・ディスカッション）
- より良い健康政策を支援するエージェントベースモデルの作成（UNU Macauの研修プログラム）
- 異なる環境資源同士の関係性や環境資源の管理における相乗効果とトレードオフに重点を置く、グローバル・サウスの学生向けの革新的な博士課程プログラム「持続可能性変革のためのリソース・ネクサス」の立ち上げ（UNU-FLORES）

SDGsの推進

豊かさ
Prosperity



SDGsの目標7–11が目指すのは、すべての人が
豊かで満たされた生活を送れるよう、経済、社会、テクノロジーの発展が
公平かつ持続可能で自然と調和したものとなることです。

2023年のハイライト

研究プロジェクトとイニシアチブ：
- 専門家ネットワーク、技術的問題解決、文化拡大を通じて、ラテンアメリカとカリブ海諸国におけるバイオテクノロジーの能力を構築（UNU-BIOLAC）
- 都市と地方自治における人工知能の実装に関する政策提言に重点を置き、都市における人間中心のAIの実装と課題を評価（UNU-EGOV）
- 脱炭素化における社会正義に重点を置いた持続可能な都市開発のためのアーバンラボをラテンアメリカの一部の都市に設立するなど、持続可能性と炭素排出量削減に向けて都市構造を変革（UNU-EHS）
- 政治、ビジネス、社会慣行など、さまざまな分野での持続可能性に関する議論を広げるために、Sustainability Management Forum Journalを立ち上げる（UNU-FLORES）
- 低コストのクリーンエネルギーソリューションによる農業生産性の向上に重点を置き、西アフリカの農村部の女性と若者に経済的エンパワーメントをもたらすクリーン農業技術を革新（UNU-INRA）
- デジタル技術とフルーガル・イノベーション（低コストの技術革新）で南部アフリカの水不足に対処し、ドイツ・アフリカ協力と若者起業家の育成を目指す（UNU-VIE）
- アフリカの持続可能な低炭素未来のために科学と政策の足並みを揃え、エネルギー転換における科学と政策のギャップへの対処を目指す「アフターカーボン」イニシアチブを立ち上げる（UNU-INRA）
- 匿名化された行政税務データに基づき、包摂的な経済政策の策定と重大な情報不足の解消について南アフリカ政府と協働するため、プレトリアに大規模なチームを設立（UNU-WIDER）
- 学際的な研究の必要性と科学技術イノベーション（STI）の取り組みに低所得国を含めることの必要性を強調し、SDGsに関連した世界のSTI研究の動向を評価（UNU-MERIT）

出版物：
- 「A Future Agenda for Research on Climate Change and Human Mobility（気候変動と人間の移動に関する研究の将来的課題）」（International Migration誌掲載のUNU-EHSによる記事）
- 「AI Is Here to Stay! How Artificial Intelligence Can Contribute to Economic Growth in Africa（これからはAIの時代！人工知能はアフリカの経済成長にいかに貢献し得るか）」（UNU-INRAウェブサイト記事）
- 「Realizing Innovation and Sustainability: A Case Study of Macau SAR's Smart City Development Capabilities（イノベーションと持続可能性の実現：マカオ特別行政区のスマートシティ開発能力に関するケーススタディ）」（Journal of Urban Affairs誌掲載のUNU Macauによる記事）
- 「Barriers to Sustainable Infrastructure: The Case of Chile（持続可能なインフラへの障壁：チリの事例）」（UNU-FLORESの報告書）
- 「The Green and Digital Transition in Manufacturing Global Value Chains in Latecomer Countries（後発国の製造業のグローバル・バリューチェーンにおけるグリーンなデジタルトランジション）」（UNU-MERITのワーキングペーパー）
- 「Gender-Sensitive AI Policy in Southeast Asia（東南アジアにおけるジェンダーに配慮したAI政策）」（UNU Macauの報告書）
- 「Global Assessment for Responsible AI in Cities（都市における責任あるAIのグローバル評価）」（UNU-EGOVのポリシーレポート）
- 「Leaving No One Behind in Carbon Neutrality Strategies: Insights from Developing Countries in Asia and the Pacific（カーボンニュートラル戦略で誰も取り残さない：アジア太平洋地域の開発途上国からのインサイト）」（UNU-IASのポリシーブリーフ）
- The Job Ladder: Transforming Informal Work and Livelihoods in Developing Countries（キャリアのはしご：開発途上国における非正規労働と生活の変革）（UNU-WIDERによる書籍）

イベント：
- 危機に瀕するグローバリゼーション：新たな経済的現実に立ち向かう（UNU-WIDER年次講演、講師：ピネロピ・ゴールドバーグ（イェール大学））
- 人工知能はアフリカの経済成長をいかに促進できるか（UNU-INRA講演、講師：チリツィ・マルワラ国連大学学長）
- 人工知能のガバナンス上の課題（UNU-CRIS講演、講師：チリツィ・マルワラ国連大学学長）
- 人工知能の倫理的影響と責任ある開発（UNU Macauのセミナーシリーズ）

教育と研修：
- ディーセント・ワークと経済成長：SDGs目標8の達成（UNU-WIDERのオンラインコース）
- イノベーションの経済学（UNU-MERITのオンラインコース）
- 水学習センター（UNU-INWEHによる取り組み。オンラインコースを提供）
- イノベーション、経済学、ガバナンス、持続可能な開発（UNU-MERITの博士課程プログラム）
- 経済の複雑性に関するスプリングプログラム（UNU-MERIT共催のプログラム）
- 国ごとのSOUTHMOD研修セッション（UNU-WIDER）

SDGsの推進

地球
Planet

SDGs目標6および12–15が目指すのは、
地球の自然資源を持続可能な形で管理し、気候変動の影響を緩和し、
地球の生物多様性と生態系を破壊から守ることです。

2023年のハイライト

研究プロジェクトとイニシアチブ：
- 災害リスクの軽減と管理のための包括的枠組みの策定など、相互に関連する災害リスクに関する旗艦報告書のための研究を実施（UNU-EHS）
- レジリエンス（強靭性）向上のため、自然を基盤とした解決策を国家レベルでの包括的な災害・気候リスク管理に組み込み、国連防災機関（UNDRR）向けの研修資料とツールキットを開発（UNU-EHS）
- 気候マイクロ保険商品など、安価な災害リスク金融ソリューションの導入により、気候変動の影響に直面する太平洋地域のコミュニティの財政的な備えとレジリエンスを強化（UNU-EHS）
- 持続可能性ネクサスAID研究プログラムを通じて統合的なリソース管理と持続可能な開発を促進（持続可能なリソース管理のための150を超える潜在的ツールをすでに特定）（UNU-FLORES）
- グローバル・サウスにおける持続可能性変革の専門家を育成するために、リソースネクサス・アプローチに重点を置いた博士課程のイニシアチブを立ち上げる（UNU-FLORES）
- 清潔な水と衛生のためのSDGs目標6政策支援システムの開発などにより、グローバル・サウスにおける水政策のエビデンス不足を解消することで、SDGs目標6の進捗の加速を支援（UNU-INWEH）
- 生物多様性と、持続可能な人と自然との関係を促進するSATOYAMAイニシアティブを主導（UNU-IAS）
- 広域カリブ海地域における水と廃水の管理を強化し、持続可能な環境慣行と公衆衛生慣行を促進するための水情報管理システムを開発（UNU-INWEH）
- アジアの都市における清潔な水と衛生のための水管理の慣行を変革し、水環境評価の指標を開発し、水の安全保障と気候変動への適応に関するプロジェクトを実施（UNU-IAS）
- 国境を越えた循環経済イニシアチブのモデルシステムを開発することで、混合プラスチック廃棄物のリサイクル技術を革新し、CO2排出量を削減（UNU-MERIT）
- 若いリーダーや女性が地域社会のネットゼロ炭素排出プロジェクトを率いる能力に重点を置き、バーチャルな研修プラットフォームとシード助成金を通じて開発途上国の気候変動対策を強化（UNU-VIE）
- 知識とベストプラクティスの共有を推進することで、水の安全保障と気候変動適応のアプローチに関するドイツ、日本、韓国間の協力を促進（UNU-IASとUNU-FLORES）

出版物：
- 「Diverse Values of Nature for Sustainability（持続可能性のための自然の多様な価値）」（Nature誌掲載のUNU-IASによる記事）
- 「Systematic Review of Methodological Tools for Evaluating the Water, Energy, Food, and One Health Nexus in Transboundary Water Basins（国境を越えた水域における水、エネルギー、食料、およびワンヘルスのネクサスを評価するための方法論的ツールの系統的レビュー）」（Environmental Management誌掲載のUNU-FLORESによる記事）
- 「The Impact of Austria's Climate Strategy on Renewable Energy Consumption and Economic Output（オーストリアの気候戦略が再生可能エネルギーの消費と経済生産に与える影響）」（Energy Policy誌掲載のUNU-VIEによる記事）
- 「Building Climate Resilience: Lessons from the 2021 Floods in Western Europe（気象災害への強靭性強化：2021年の西ヨーロッパ洪水の教訓）」（UNU-EHS、UNU-CRIS、UNU-MERITの報告書）
- 「Climate Resilience Initiative Final Report（気候レジリエンス・イニシアチブ最終報告書）」（UNU-CRIS）
- Ecosystem Restoration through Managing Socio-Ecological Production Landscapes and Seascapes（社会生態学的生産ランドスケープ・シースケープの管理による生態系の回復）（UNU-IASの書籍）
- 「Global Bottled Water Industry: A Review of Impacts and Trends（世界のボトル飲料水産業：影響と傾向の評価）」（UNU-INWEHの報告書）
- 「Global Water Security 2023 Assessment（2023年 世界における水の安全保障アセスメント）」（UNU-INWEHの報告書）
- 「Interconnected Disaster Risks: Risk Tipping Points（相互に関連する災害リスク：リスクの臨界点）」（UNU-EHSの報告書）
- 「NEXtra Core: Sustainable Transformation in Coal Regions of the Global South（ネクストラ・コア：グローバル・サウスの石炭地域における持続可能な変革）」（UNU-FLORESの報告書）
- 「UN World Water Development Report 2023（国連世界水開発報告書2023）」（UNU-CRIS、UNU-EHS、UNU-MERITが貢献）

イベント：
- SATOYAMAイニシアティブ国際パートナーシップ定例会合（UNU-IAS）
- 臨時ドレスデン・ネクサス会議（UNU-FLORES）
- ドイツにおける国連の重要拠点、ボンで持続可能性を祝う（UNU-VIEによるイベント）
- グリーンセクターのイノベーター・起業家支援のためのバーチャル技術ハブサービス設立の青写真（UNU-VIEが開催したCOP28におけるセッション）
- 「環境と災害リスク軽減のためのパートナーシップ」ネットワークの科学政策ワークショップ（UNU-EHS）
- 繊維産業における責任ある資源利用（UNU-FLORESによるシンポジウム）

教育と研修：
- 健康と生命科学のための計算ゲノミクス（UNU-BIOLACのコース）
- 環境リスクと人間の安全保障の地理学（UNU-EHSの理学修士課程プログラム）
- 気候変動に関連する人の移動（UNU-VIEとUNU-EHSのオンラインコース）
- 水・土壌・廃棄物の統合管理（UNU-FLORESの共同博士課程プログラム）
- 持続可能性に関する理学修士課程プログラム（UNU-IAS）
- 持続可能性科学に関する博士課程プログラム（UNU-IAS）
- 持続可能性変革のための資源ネクサス（UNU-FLORESの博士課程プログラム）
- メタゲノミクス（UNU-BIOLACのコース）
- 国境なき水資源（UNU-INWEHの学際的大学院ディプロマプログラム）
- 気候変動対策への人々の道（UNU-EHS）

SDGsの推進

平和とパートナーシップ

Peace & Partnerships

SDGsの目標16と17が目指すのは、
個人が恐怖や暴力から解放されて暮らせる平和かつ公正で
包摂的な社会を育み、持続可能な開発に向けた
グローバル・パートナーシップを再活性化することです。

2023年のハイライト

研究プロジェクトとイニシアチブ：

- 金融セクターに働きかけ、「奴隷制と人身売買に対抗する金融（FAST）」プログラムを通じて現代の奴隷制、人身売買、関連する金融犯罪・汚職と闘い、政策変更への影響と、こうした犯罪に関わる金融資産の回収を目指す（UNU-CPR）
- 国連平和構築支援事務局のために、気候変動、安全保障、平和構築の交わる問題に関するテーマティック・レビューを実施（UNU-CPR）
- サウジアラビア政府と協力し、革新的な電子行政参加メカニズムを開発し、透明性の高いガバナンスと、情報やサービスへの一般市民のアクセス向上を促進（UNU-EGOV）
- カタールの省庁とともに、地元のテクノロジー企業や教育機関の協力を得て、新しいデジタルサービスの導入や既存サービスの強化などのデジタル変革を加速（UNU-EGOV）
- ヨーロッパやその他地域での非正規移民およびその政策への影響を測定する際のデータ不足に対処し、エビデンスに基づく政策立案のためのデータベースとハンドブックを作成（UNU-MERIT）
- 暴力的紛争が長期的な国家建設と経済の軌道にいかに影響するかを調査し、紛争後の復興に向けた強力で包摂的な国家機関の構築について政策ガイダンスを提供（UNU-WIDER）
- 平和、安全保障、金融、気候変動、デジタル化などの分野でのグローバル・アーキテクチャの強化に重点を置いた、「効果的な多国間主義に関するハイレベル諮問会議」の報告書の作成を支援（UNU-CPR）
- 東カリブ諸国機構内での地域統合と開発を監視するための枠組みとツールの開発プロジェクトに貢献（UNU-CRIS）
- フランドル地方の自治体のパフォーマンスを評価するデータベースを作成するなど、地方自治体によるSDGs実現の追跡と政策調整を支援するため、SDGs指標をローカライズ（UNU-CRIS）
- 気候変動に関する取り組みと持続可能な開発目標との整合に関する研究を実施（UNU-IAS）
- グローバル・サウスにおける政策立案の改善のために、行政税データの活用と、経済成長および社会福祉を向上させる効率的で公平な税制の策定を支援（UNU-WIDER）

出版物：

- 「Artificial Intelligence-Powered Disinformation and Conflict（人工知能を使った偽情報と紛争）」（UNU-CPRによるポリシーブリーフ）
- 「Beyond Digital Access as a Human Right in Cities（都市における人権としてのデジタルアクセスを超えて）」（UNU-EGOVによるホワイトペーパー）
- 「Complexity of Choice in Asylum Seeker Decision-making（庇護希望者の意思決定における選択の複雑性）」（UNU-CPRによるポリシーブリーフ）
- 「Digital Transformation of Social Security Administration and Services（社会保障の行政およびサービスのデジタル変革）」（UNU-EGOVによるワーキングペーパー）
- 「How to Support the Emergence of Effective Tax Systems（効果的な税制の出現を支援するには）」（UNU-WIDERによるポリシーブリーフ）
- 「Towards Peace, Decent Work, and Greater Equality: Research Evidence for Transforming Economies, States, and Societies（平和、ディーセント・ワーク、さらなる平等に向けて：経済、国家、社会を変革するための研究エビデンス）」（UNU-WIDERによる報告書）

イベント：

- 「国際情勢における欧州連合（EU）」会議（UNU-CRIS）
- 電子ガバナンスの理論と実践に関する年次国際会議（ICEGOV 2023）（UNU-EGOV）
- スマートで無駄のない統合：地球規模の課題に対する地域的解決策の模索（UNU-CRISによる会議）
- T7 Japanサミット（UNU-IAS）
- 大西洋横断パラディプロマシー学者フォーラム（UNU-CRIS）
- 「相互に関連する災害リスク」報告書アウトリーチイベント（UNU-EHS）
- 臨時ドレスデン・ネクサス会議2023（UNU-FLORES）
- 人工知能を管理する（UNU-CPRによるワークショップ）
- 移民政策ラウンドテーブル（UNU-CPR）
- 開発のための収入を増やす ― 国内資源動員の役割（UNU-WIDERによる開発会議）
- 西アフリカ・デジタルガバナンス・フォーラム（UNU-EGOV）

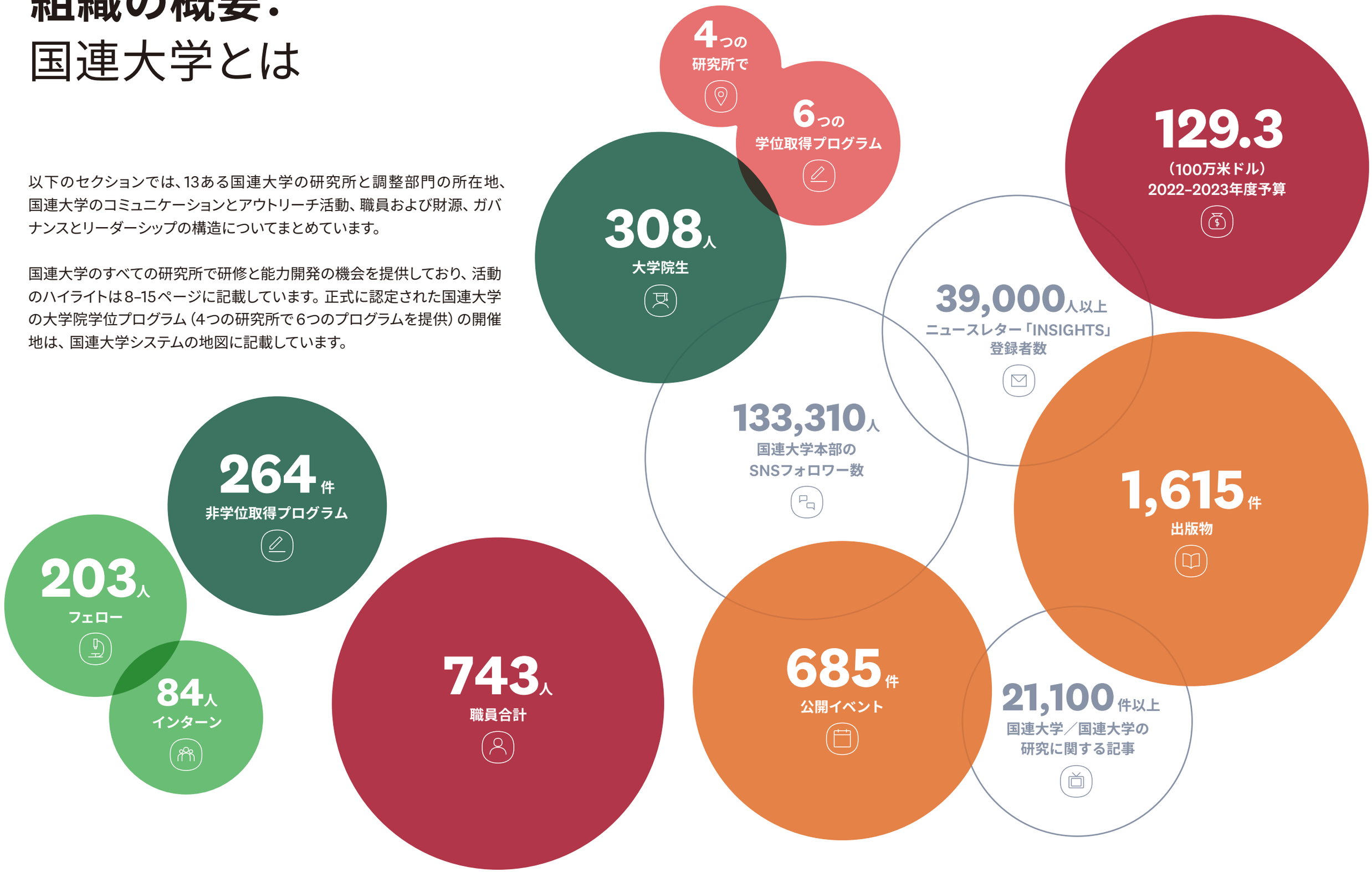
教育と研修：

- エジプトの電子ガバナンスと公共セクターに関する能力開発プログラム（UNU-EGOV）
- 現代奴隷制および人身売買防止の取り組み（UNU-CPRオンラインコース）
- サウジアラビアのデジタル変革とデジタル参加に関する能力開発プログラム（UNU-EGOV）
- 現代外交学院（UNU-CRIS）
- 季節開校スクール：気候、移住、健康のネクサス（UNU-CRIS）
- アジア太平洋地域の市長のための持続可能な都市開発研修（UNU-IAS）

組織の概要：
国連大学とは

以下のセクションでは、13ある国連大学の研究所と調整部門の所在地、国連大学のコミュニケーションとアウトリーチ活動、職員および財源、ガバナンスとリーダーシップの構造についてまとめています。

国連大学のすべての研究所で研修と能力開発の機会を提供しており、活動のハイライトは8–15ページに記載しています。正式に認定された国連大学の大学院学位プログラム（4つの研究所で6つのプログラムを提供）の開催地は、国連大学システムの地図に記載しています。



組織の概要

国連大学システム

国連大学は、12カ国にまたがる13の研究所のネットワークとして運営されており、各研究所にはそれぞれの規則とホスト国との契約で定められた特定の重点テーマがあります。東京を拠点とする国連大学本部が、グローバルな国連大学システムの調整役を担っています。

1 国連大学本部

- **国連大学本部（東京）**は、プログラム策定、計画、管理など、国連大学の本部として機能し、学長室、管理・財務サービス部門、IT部門、広報部で構成されています。
- **国連大学本部（マレーシア・プトラジャヤ）**は、管理、人事、財務サービス部門の支部として運営されています。
- **UNU-VIE** ―国連大学副学長欧州事務所（ドイツ・ボン）は、国連大学の組織開発を支援し、共同活動やネットワークの調整を行い、ボンの国連機関や地域のステークホルダーとの協力関係を促進しています。

2 UNU-BIOLAC ― 国連大学中南米バイオ技術プログラム（ベネズエラ・カラカス）は、持続可能な開発のためのバイオテクノロジーの利用を促進しています。

3 UNU-CPR ― 国連大学政策研究センター（米国・ニューヨーク）は、グローバルな公共政策課題に対する画期的な解決策を生み出し、国連における政策議論に貢献し、国連大学システムを国連本部で代表します。

4 UNU-CRIS ― 国連大学地域統合比較研究所（ベルギー・ブリュージュ）は、ガバナンス、協力、そして地域内・地域間統合の問題に重点を置いています。

5 UNU-EGOV ― 国連大学政策主導型電子ガバナンスに関するオペレーティング・ユニット（ポルトガル・ギマランイス）は、ガバナンス、テクノロジー、そして開発に関する活動に従事しています。

6 UNU-EHS ― 国連大学環境・人間の安全保障研究所（ドイツ・ボン）は、環境問題によってもたらされる脆弱性や環境的・社会的要因の相互作用に重点を置き、地球規模での環境変化という課題に取り組んでいます。

7 UNU-FLORES ― 国連大学物質フラックス・資源統合管理研究所（ドイツ・ドレスデン）は、水、土壌、廃棄物を中心とした環境資源の持続可能な利用と統合管理に貢献しています。

8 UNU-IAS ― 国連大学サステイナビリティ高等研究所（東京）は、持続可能な社会への転換、自然資本と生物多様性、そして地球規模での変化とレジリエンスに重点を置き、より持続可能な未来を実現するための取り組みを支援しています。

9 UNU-IIGH ― 国連大学グローバルヘルス研究所（マレーシア・クアラルンプール）は、保健制度におけるジェンダー主流化と、グローバル・サウスの意思決定者の支援に重点を置きながら、重要な保健問題に関してエビデンスに基づく政策を推進しています。

10 UNU-INRA ― 国連大学アフリカ自然資源研究所（ガーナ・アクラ）は、アフリカの自然資源管理問題への持続可能な対応に関する最先端の知見を提供しています。

11 UNU-INWEH ― 国連大学水・環境・保健研究所（カナダ・オンタリオ州ハミルトン）は、さまざまな水問題に関する既存の知見を分析、統合し、水の安全保障に関する新たな政策課題を特定し、規模の拡大・縮小が可能な解決策を開発します。

12 UNU Macau ― 国連大学在マカオ研究所（中国・マカオ）は、デジタル技術とSDGsについて政策に有用な研究を行い、エビデンスと知識に基づく参加型の意思決定を支援します。

13 UNU-MERIT ― 国連大学マーストリヒト技術革新・経済社会研究所（オランダ・マーストリヒト）は、技術革新を促進する社会的、政治的、経済的要因を探求しています。

14 UNU-WIDER ― 国連大学世界開発経済研究所（フィンランド・ヘルシンキ）は、「研究から実用化へ」のプロセスを重視しながら、経済、国家、社会を変えるうえでの相互に関連する開発課題に重点を置いています。

影響力をもたらす コミュニケーションと関係づくり

国連大学では、出版物、イベント、専門研修、ハイレベルでのブリーフィング、ウェブサイト、従来型メディアおよびソーシャルメディアなど、多様な方法で研究成果、洞察、専門知識を共有することで、活動をより広い範囲に届け、影響力を高めています。この多面的な取り組みにより、知識交換の促進者として、また現実世界の問題の解決策を見つける触媒としての国連大学の役割を強化しています。

知識の共有 — 国連大学は、研究成果と知識を、内部出版物（報告書、ポリシーブリーフ、ワーキングペーパー、ディスカッションペーパー）および外部出版物（書籍、共著のチャプター、査読付きジャーナルの記事、オンラインメディアの特集記事）の両方の幅広い出版物を通じて発信しています。これによって、学術関係者、専門家、政策立案者、直接影響を受けるコミュニティ、幅広い関心を持つ一般の人々など、多様な読者に情報を届けることが可能となり、世界の知的議論に貢献しています。2023年の国連大学の出版物の一部は、本報告書の**「SDGsの推進」**のセクションで紹介しています。これらの出版物および8,000点を超えるその他の出版物（2023年に発表された1,600点以上もの出版物を含む）は、UNU Collectionsからオンラインでお読みいただけます。その他の出版物は、作成した研究所または発行した外部パートナーのウェブサイトからダウンロードできます。

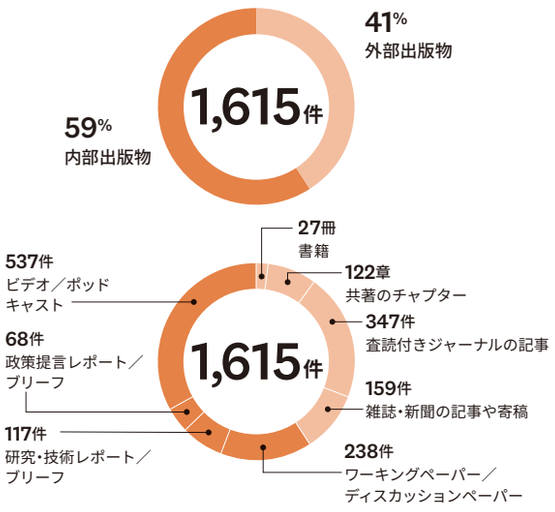
グローバルな対話の促進 — 国連大学は、幅広い参加を促し、革新的思考を刺激し、異なる分野間の提携を推し進めるために、対面とオンラインの両方でさまざまなイベント（会議、セミナー、シンポジウム、講演会）を主催しています。2023年には685件のイベントが開催され、その一部は本報告書の**「SDGsの推進」**のセクションで紹介しています。

リーダーシップ能力の開発 — 国連大学は、環境リスク、人間の安全保障、公共政策、人間開発、持続可能性、水と廃棄物の管理、経済とガバナンスなどの重要な分野における専門的な大学院学位（理学修士号と博士号）プログラムを通じ、将来のリーダーを育成することを優先事項としています。2023年には、これらのプログラムに300名を超える学生が参加し、その半数以上が開発途上国出身で、6割が女性でした。さらに、多数の専門分野に関する研修機会を提供し、7,000名を超える参加者のスキルセットを強化しました。こうした教育への取り組みは、若手の学者に国連大学の専門家と協力する機会を提供することで、さらに強化されています。

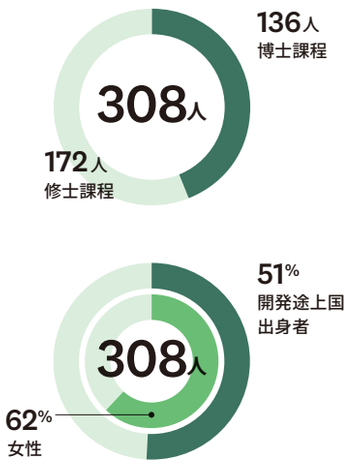
政策対話の形成 — 国連大学は2023年も引き続き、最高レベルでの政策形成に有用なエビデンスに基づく情報を提供し、重要な役割を果たしました。中でもとくにUNU-CPRは、来たる「未来サミット」に備え、多国間主義の強化とグローバルガバナンス構造の改革の提言に重点を置いたブリーフィングによって、国連職員や国連加盟国代表者への極めて重要な情報の提供に積極的に取り組みました。

関係性の構築 — 国連大学は、世界での認知度を高め、一般の人々とのつながりを強化するために、マスメディア、オンラインプラットフォーム、ソーシャルネットワークを活用した多面的なアプローチを採用しています。さまざまな言語でのメディア報道と、人気のソーシャルメディア・プラットフォーム上の確かな存在感は、この戦略の重要な要素となっています。2023年に刷新された統一ウェブサイト・プラットフォームが立ち上げられたことで、国連大学のリソースへのアクセスがよりシンプルで使いやすくなり、ニュースレター「INSIGHTS」の登録者数も引き続き増加しています。

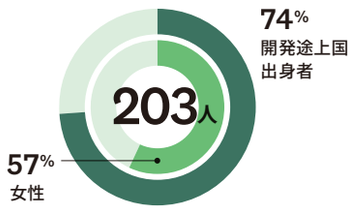
出版物



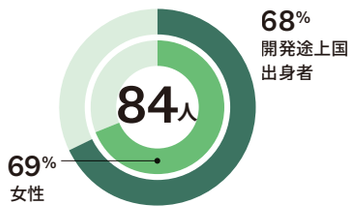
大学院生



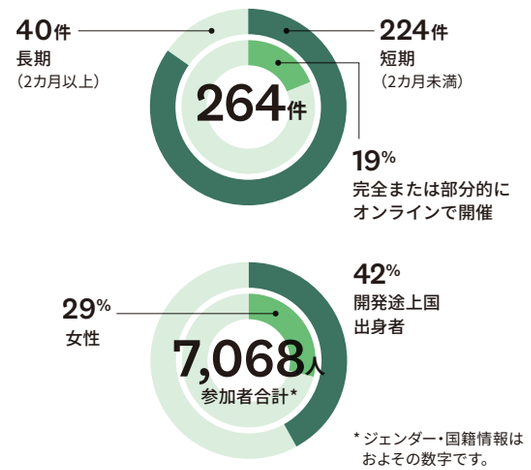
フェロー



インターン



非学位取得プログラム（研修・講座等）



*ジェンダー・国籍情報はおよその数字です。

職員および財源

職員 — 国連大学の職員には、専門職員と一般職員（国連職員規定および規則に則って採用）のほか、客員研究者、リサーチアソシエイト、ポスドクフェロー、事務・学術サービス職員、専門コンサルタントが含まれます。2023年末時点で、国連大学システムの職員数は743名（うち44%が開発途上国出身者、56%が女性）です。

国連大学は、包摂的な雇用主として、多様性を受け入れ、個人の違い（人種、文化、性別など）を尊重し、あらゆる形態の差別、ハラスメント、不当な扱いが一切ない、アクセスしやすく働きやすい職場の維持に尽力しています。

2023年、国連大学は国連システム全体におけるジェンダー平等に関する行動計画の指標の93%を達成しました（国連システムの平均を大幅に上回る）。2023年には、世界に広がる国連大学本部と全13のうち10の研究所で、女性の職員が50%以上となりました。年末時点で、現職の国連大学理事会メンバーの82%が女性であり、国連大学の指導的地位の50%を女性が占めており、国連大学のすべての研究所の諮問機関や諮問委員会には少なくとも40%の女性メンバーがいます。

国連大学はイベントやさまざまな学術プログラム、インターンシッププログラムにおいても、男女平等の実現に努めるとともに、障害者の有意義な参加を支援しています。

財政 — 国連大学は、国連の通常予算からは一切資金を受けていません。国連大学の資金はすべて、基本財源（主にホスト国からの定期的な拠出金および国連大学基金の運用益）や、特定の研究プロジェクトのために寄せられた拠出金（国連加盟国、財団、機関、国際組織、その他の資金源より）の形での任意の拠出金によって賄われています。国連大学は、財務管理の透明性と説明責任の実現に尽力しており、その財務資源は、戦略上の優先順位に沿って、世界的使命を果たすために配分しています。

予算 — 2022—2023年の2年間に認可された国連大学の予算は1億2,930万米ドルでした。

拠出金受領一覧

2023年1月1日—12月31日

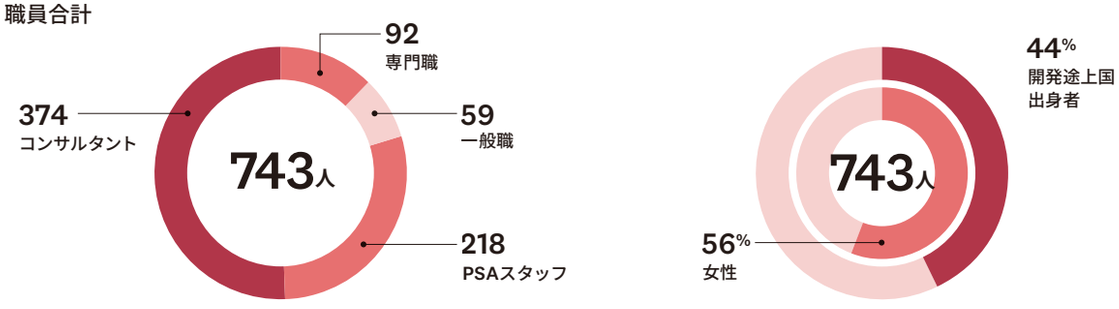
* 拠出金の額は米ドル相当に換算され、1ドル未満は四捨五入しています。また、小計には概算が反映されている場合があります。

加盟国政府	米ドル *
Australia	49,645
Belgium	1,137,913
Canada	1,467,351
European Union (European Commission)	103,211
Finland	2,773,447
France	21,875
Germany	9,400,289
Japan	5,268,359
Korea	113,797
Luxembourg	11,086
Macau S.A.R.	404,311
Norway	3,067,164
Principality of Liechtenstein	436,598
Portugal	2,155,800
Senegal	162,578
South Africa	620,782
Sweden	398,415
Switzerland	1,271,095
The Netherlands	1,222,917
United Kingdom	383,868
小計	**30,470,501**

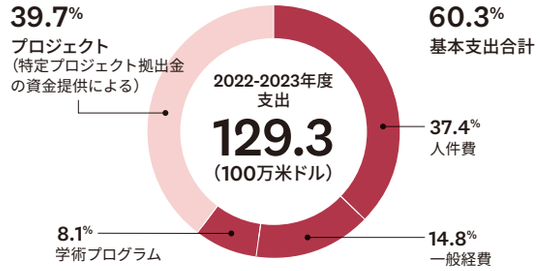
その他の団体・組織	
Alexander von Humboldt-Foundation	22,869
Asian Develop Bank, Manila-ADB-Manila	83,713
BoB Immobilienkonzepte GmbH	193,282
CIMA Research Foundation	51,875
Coventry University	78,361
Deutsche Gesellschaft für Internationale Zusammenarbeit (GIZ) GmbH	2,086,782
Deutsches Zentrum fuer Luft-und Raumfahrt e.v. (DLR)	25,385
Eurac Research	378,832
European Investment Bank (EIB)	189,829
Executive Office of the Secretary-General (EOSG)	67,000
Farmer's Market Association	99,216
Foundation for the Graduate Institute of International and Development Studies	26,750
Guido Feger Foundation	27,422
Harbour International Education Technology Co., Ltd	98,453
Institute Of Development Studies (IDS)	58,667
International Development Research Centre (IDRC)	1,325,980
Ishikawa Prefecture	140,645
Japan Foundation for the United Nations University (JFUNU)	125,411
Japan Society For The Promotion Of Science (JSPS)	57,673
Kanazawa City	175,398
LGT Group	107,225
Liechtensteinischer Bankenverband (Liechtenstein Bankers' Association)	21,172
Maastricht City Council	644,280
Maastricht Graduate School of Governance (MGSoG)	202,492
Munich Climate Insurance Initiative	600,573
Munich Re Foundation	49,061
Resona Holdings, Inc	96,108
Secretariat of the United Nations Convention to Combat Desertification (UNCCD)	148,956
Stichting Deltares	62,279
Stichting Maastricht Economic Research Institute on Innovation and Technology	104,056
Stiftelsen Global Challenges Foundation (GCF)	78,190
Tarom Foundation	54,183
Technische Universitaet Dresden	54,765
The British Institute of International and Comparative Law	39,387
The International Institute for Environment and Development	38,829
The Rule of Law Centre of the University of Helsinki	26,969
The West African Science Service Centre on Climate Change and Adapted Land Use (WASCAL)	79,382
UNDP Multi-Partner Trust Fund Office (MPTFO)	100,000
United Nations Development Programme (UNDP)	20,000
United Nations Economic Commission for Africa (UNECA)	172,111
United Nations Environmental Program Finance Initiative (UNEP FI)	970,874
United Nations Framework Convention on Climate Change (UNFCCC)	40,248
United Nations Office for Disaster Risk Reduction (UNDRR)	224,288
United Nations Office for Project Services (UNOPS)	750,000
United States Institute of Peace (USIP)	133,918
Universiteit Gent	66,208
University Of Copenhagen	88,708
Vrije Universiteit Brussel	131,004
Zukunft-Umwelt-Gesellschaft gGmbH	352,396
Other donors (39 other donors with individual contributions of less than US$20,000)	167,954
小計	**10,939,161**

合計	**41,409,662**

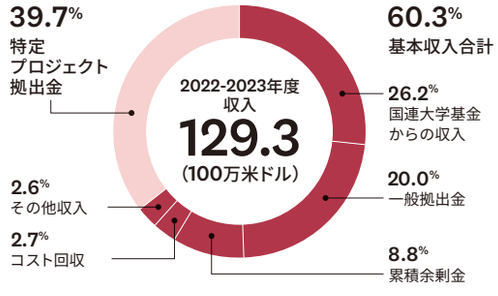
職員合計



支出



収入



組織の概要

ガバナンスとリーダーシップ

国連大学の運営と学術活動は、システム全体および各研究所レベルを対象とする、統合されたガバナンスとリーダーシップの構造により導かれています。

システムレベルの管理体制

国連大学理事会は、グローバルな国連大学システムの業務を監督しています。16名からなるこの理事会は、任命された12名の理事、国連大学学長、および3名の職務上の理事（国連事務総長、ユネスコ事務局長、国連訓練調査研究所（UNITAR）所長）で構成されています。国連大学理事会は戦略上の指針を提供し、大学の活動プログラムと予算を承認し、システム全体の方針を定めます。2023年には、第79回と第80回の理事会が（それぞれ6月1日―2日に東京、11月30日―12月1日にボンにて）開催されました。

国連大学学長室は、国連大学システムの日々の調整を行い、方向性を定めます。国連事務次長の地位にある学長が率いる学長室は、国連大学研究所のネットワーク全体にわたり、学術上および管理上のリーダーシップを統合しています。2023年3月、国連大学は、カナダのデイビッド・マローン博士の後任として、南アフリカのチリツィ・マルワラ教授を新学長に迎えました。

国連大学事務局は、統一基準の作成、財務および予算報告、グローバルな国連大学システム全体の人事、財務、調達サービスを担当しています。

研究所レベルの管理体制

各国連大学研究所は所長が率いており、予算、人事、学術活動、研究活動といった研究所の運営管理を監督しています。所長は、年に一度の頻度で研究所所長会議（CONDIR）を行うほか、定期的にオンラインで研究所間の調整と方針について話し合っています。

諮問機関・諮問委員会（通常3名以上の任命されたメンバーに加えて国連大学学長と研究所所長で構成）は、各研究所の重点テーマに基づくプログラム作成や管理について専門家として指導します。

外部監督

国連大学の監督の役割を果たす国連システムの主要機関には、内部監査室、会計検査委員会、行財政問題諮問委員会などがあります。

東京 — 6月開催の第79回国連大学理事会に出席する理事会メンバーとマルワラ学長。

国連大学理事会2023

任命された理事

- **ヤミニ・アイヤール氏**（インド） — 政策研究センター（ニューデリー）所長兼最高経営責任者
- **ヒラリー・ベクルズ教授**（バルバドス） — 西インド諸島大学副総長
- **デニサ・シデロバ博士**（スロバキア） — ブラチスラバ経済大学国際貿易学部准教授・Idea Puzzle社リエゾン
- **コンフォート・エロ博士**（英国） — 国際危機グループ会長兼CEO
- **方新博士**（中国） — 中国科学院大学教授
- **エンリケ・フォレロ博士**（コロンビア） — 国際学術会議ラテンアメリカ・カリブ海地域フォーカルポイント議長［2023年9月5日ご逝去］
- **アダム・ハビブ教授**（南アフリカ） — ロンドン大学東洋アフリカ研究学院（SOAS）学長
- **キャサリン・キョブトゥンギ教授**（ウガンダ） — アフリカ人口保健リサーチセンター事務局長
- **フンミ・オロニサキン教授**（英国・ナイジェリア） — ロンドン大学キングス・カレッジ副総長兼副学長（国際交流担当）、安全保障・リーダーシップ・開発担当教授［理事会議長］
- **佐藤地大使**（日本） — JR東日本商事顧問、国立文化財機構顧問
- **バネッサ・シェエラー博士**（フランス） — パリ政治学院国際担当副学長
- **ブレンダ・ヨー教授**（シンガポール） — シンガポール国立大学社会科学ラッフルズ記念教授

職務上の理事

- 国連大学学長
- 国連事務総長
- ユネスコ事務局長
- ユニタール事務局長

国連大学学長室

- 学長：**デイビッド・マローン**（2月28日まで）
- 学長：**チリツィ・マルワラ**（3月1日から）
- 上級副学長：**白波瀬佐和子**
- 欧州事務所副学長：**申暁萌（シェン・シャオメン）**
- 学長室長：**サビーネ・ベッカーティエリー**

国連大学事務局

事務局長：**ジョアン・サウェ**

国連大学研究所所長

- UNU-BIOLACプログラム・コーディネーター：**イヴァン・ガリンド・カストロ**（1月26日まで）
- UNU-BIOLACプログラム・コーディネーター：**グスタヴォ・フェルミン**（1月27日から）
- UNU-CPR所長：**デイビッド・パッサレッリ**
- UNU-CRIS所長：**フィリップ・ド・ロンバルド**
- UNU-EGOV長：**デルフィナ・ソアレス**
- UNU-EHS所長：**申暁萌（シェン・シャオメン）**
- UNU-FLORES所長：**エーデルトラウト・ギュンター**
- UNU-IAS所長：**山口しのぶ**
- UNU-IIGH所長：**ラジャト・コスラ**
- UNU-INRA所長：**ファティマ・デントン**
- UNU-INWEH所長:**ヴラディミール・スマッティン**（1月31日まで）
- UNU-INWEH所長：**カーヴェ・マダーニ**（2月1日から）
- UNU Macau所長：**ジンボ・ファン**
- UNU-MERIT所長：**バーテル・バンデヴァーレ**
- UNU-WIDER所長：**クナル・セン**

年次報告書2023（完）